

事務事業チェックシート

事務事業No 18 事業名 大規模災害用備蓄対策事業

分野別目標	1	安心して、安全に暮らせるまち
政策	1	総合防災対策の充実
施策	3	災害等に強い体制づくりの推進
基本方針	2	非常用物資の確保

事業種別	継続	主な事務事業	○
事業期間	～		
事業実施の根拠法令			
関連個別計画	和歌山市地域防災計画		
担当課・担当課長 (Tel)	総合防災課	岡崎 州宏 (435-1199)	
関連課			

[事業基本情報]

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	○
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・予算区分	会計	一般会計		
	款	総務費		
	項	総務管理費		
	目	総合防災費		
	大事業	総合防災事業		
事項	大規模災害用備蓄対策事業			

「3つの約束・44の約束」との関連性

3つの約束	産業を元気に	まちを元気に	人を元気に	非該当
			○	
44の約束	避難路、避難場所、福祉避難所の整備			

1 事業概要及び実施内容

事業概要	事業目的（「誰・何」をどういう状態にする」ための事業か）	事業内容				
	東海・東南海・南海地震などの大規模災害時に備え、最低限必要な物資の備蓄を行う。	食料、生活用品、資機材等の備蓄を行っている。備蓄の主なものとして、アルファ化米（5年）、乾パン（5年）、飲料水（5年）、粉ミルク（1.5年）、毛布、オムツ、生理用品、ブルーシートなどを備蓄しており、消費期限のあるものは防災訓練などで有効活用しながら順次入れ替えを行っている。				
実施内容		平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
		①備蓄物資の調達 アルファ化米10,600食、乾パン5,112缶、飲料水20,016本、粉ミルク600缶、公共下水道接続型仮設トイレ65台 ②備蓄物資の管理（期限切れに伴う有効活用を含む）	①備蓄物資の調達 アルファ化米11,600食、乾パン4,800缶、飲料水20,016本、粉ミルク600缶、公共下水道接続型仮設トイレ65台 ②備蓄物資の管理（期限切れに伴う有効活用を含む）	①備蓄物資の調達 アルファ化米9,600食、乾パン4,800缶、飲料水20,016本、粉ミルク600缶、公共下水道接続型仮設トイレ25台 ②備蓄物資の管理（期限切れに伴う有効活用を含む）	①備蓄物資の調達 避難者想定数（88,300人）に基づく備蓄物資の追加調達 ②備蓄物資の管理（期限切れに伴う有効活用を含む）	①備蓄物資の調達 避難者想定数（88,300人）に基づく備蓄物資の追加調達 ②備蓄物資の管理（期限切れに伴う有効活用を含む）

2 事業コスト

事業費等 千円			平成25年度		平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
			当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	計画	決算
	事業費		14,836	10,047	13,263	11,144	9,729		9,729		9,729	
	伸び率 (%)		-	-	-10.6%		-26.6%		0.0%		0.0%	
	人件費	常勤職員	13,420	13,546	11,488	14,152	12,138		12,138		12,138	
		非常勤職員	447	1,005	1,005	1,077	1,077		1,077		1,077	
		小計	13,867	14,551	12,493	15,229	13,215		13,215		13,215	
	国庫支出金											
	県支出金			2,944	3,644	2,909	2,076		2,076		2,076	
	市債											
その他												
一般財源（税等）		14,836	7,103	13,263	8,235	7,653		7,653		7,653		
所要人数	常勤職員	1.81	1.81	1.54	1.90	1.63		1.63		1.63		
	非常勤職員	0.28	0.48	0.48	0.57	0.57		0.57		0.57		
主な予算内訳		消耗品費 4,364千円、管理委託料 395千円、業務用器具費 4,152千円										

3 目標及び実績

活動指標	指標名及び達成状況					平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	
	備蓄食糧数（アルファ化米及び乾パン）					年度目標値	72,000	72,000	72,000	78,800	85,600
	実績値					72,024	74,620				
	単位	食	全体目標値	106,000(H32)	全体目標達成度	70.4%	年度別達成度	100.0%	103.6%		
	備蓄毛布					年度目標値	24,000	24,000	24,000	24,000	24,000
	実績値					24,000	24,339				
成果指標	食糧の備蓄率（アルファ化米及び乾パン）					年度目標値	100	100	67.9	74.3	80.8
	実績値					100	103.6				
	単位	%	全体目標値	100(H32)	全体目標達成度	70.4%	年度別達成度	100.0%	103.6%		
	備蓄毛布の備蓄率					年度目標値	100	100	100	100	100
	実績値					100	101.4				
	単位	%	全体目標値	100	全体目標達成度	101.4%	年度別達成度	100.0%	101.4%		

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか		できる	○	あまりできない	できない
[有効性]成果目標はどの程度達成しているか		達成している(90%以上)	○	おおむね達成(70~90%未満)	達成していない(70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し		適正	○	負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				○
	現状維持				
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	<p>東海・東南海・南海3連動地震発生時の避難者想定数が平成26年度末に24,000人から88,300人に引き上げられた。備蓄方針として、上記の避難所想定数に基づき、輸送手段の障害から輸送ルート等が確立するまでの3日間に必要とされる「生命の維持と最低限度の生活の維持」に必要な物資を備蓄していく。(備蓄数量：市備蓄1/3、県備蓄1/3、市民備蓄1/3、市備蓄のうち2/3は流通備蓄でまかなう)</p>
「見直し」 「改善」案	<p>避難者想定が変更された場合、備蓄の見直しが必要である。</p>